

第2回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：令和元年8月1日（木） 13：30～15：30

○場 所：八幡市役所 分庁舎2階 会議室A

○内 容：

- 1 開会
- 2 協議・報告
 - (1) 総合戦略の進捗状況について【資料1】
 - (2) 八幡市の人口について【資料2】
 - (3) 次期総合戦略の策定について【資料3、4】

（1）総合戦略の進捗状況について

委 員：達成状況について、達成が◎、前年度より前進している場合○、前年度と同じ値もしくは後退している場合△、その他が―（バー）と評価しているが、例えば、全国学力学習状況調査では、京都府の平均が何点であり、それに対して八幡市が何点など、目標を達成するために不足している部分が見える形で設定する必要があると考えるが、そのような出し方はできないのか。

事 務 局：毎年度の実績は、京都府の平均点と八幡市の平均点といった出し方ができると思うが、毎年度目標となる京都府の平均点が変わることなどから、京都府平均以上という目標を設定している。

委 員：小学校6年生の国語Aは府平均以上が目標値であるが、平成30年度は府平均以下差3%以内に収まり、29年度の5%以内より改善したため、○となっているのか。

事 務 局：昨年度は5%以内で、平成30実績では3%以内となっており昨年度より前進していることから○となっている。ただし目標については府平均以上であることから、目標は達成していないが、前年度より前進しているため、○としている。

委 員：子育てが楽しいと思う保護者の割合では、H30実績が前年度より大幅に悪化した理由と分析・改善に向けた取り組みはどのようにされるのか。

事 務 局：大幅に減となった理由としては、調査対象者の一部や設問が異なることなどが考えられる。詳細な要因の分析と改善方法の整理を次回以降に行う。

- 委員：できれば次回に間に合うように、要因分析をしていただきたい。不十分でも資料があれば活発な議論ができると考える。また、進捗状況については、今回の総括の中で改善を行うのか、今後に向けて改善するのかを含めて、見直すべきではないか。今後に向けてK P Iについても意見があれば、聞きたい。
- 委員：観光客の満足度、市民の幸福度のまだ実施されていないところは、どのようにされるのか。
- 事務局：総合戦略を作成した時に、調査を行う予定であったが、満足度に個人差があること等の課題があり、未設定となっている。最終的な取りまとめを行うまでに、これに変わる指標の設定を考えている。戦略を改定するのではなく代替りとなる指標をお示ししたいと考えている。
- 委員：総合戦略の策定時以降、大阪・京都でインバウンドが増えたが、八幡市ではインバウンドで京都を訪れた人を取り込めたのだろうか。
- 事務局：観光入れ込み客数は、日本人と外国人で分けて集計をしていないため、数値データを持ち合わせていないが、桜の時期でいくと、さくらまつりでは中国をはじめとしたアジア系の観光の方が多くなっていると聞いている。
- 委員：月別の内訳や構成比率のようなものを類似都市と比較することが好ましい。
- 委員：京阪では外国人利用者がどれぐらいいたのか分かるのではないかと。外国人観光客は関西国際空港に到着してからI Cチップがついたカード、チャージできるカードを買われているため、ある程度京阪は数値を把握していると思う。
- 委員：住宅都市を目指すのか観光都市を目指すのか、という点において、決めつけはできないが、ある程度観光を重視しないと、人口減少を止められないと感じる。
- 委員：まち・ひと・しごと創生総合戦略なので、仕事に結び付かないと働きに出るサラリーマンにとってはベットタウンにしかならない。そうなると地方は疲弊していく。住んでいる人の幸福度を高めることが重要であると考えている。

(2) 八幡市の人口について

- 委員：自然減と社会減の中で、社会減が少し減少してきたとあったが、総人口が減

ってきていることから連動して社会減少につながっていると考えられる。要因分析の内容の問題であるが、社会減の人数が平成 24 年がピークで、以降少しずつ減ってきている。

事務局：総人口と社会減少の関連性は把握していないが、転出先をエリアごとに見ると、転出先がやはり遠方になる方が増えてきていると考えている。また、東京圏への移動が増えており、枚方市あたりの人口移動は縮小してきている。

委員：大都市への集中という全国的なトレンドがあることから、東北とか九州あるいは四国に転勤される方の数が減っている。そのため、地方ではなく東京や大阪へ移動される方が多い。数が増えた減ったというだけでは分析は難しいのではないかと。

委員：世帯単位での増減をつかむことができないのだろうか。世帯がどのように増減しているかを見れば、もう少し考えられるのではないかと。

事務局：世帯の増減をつかむことはできるが、市内に住んでおられても、その世帯分離をするような場合があり、人口が減っていても世帯数は増えている状態である。

委員：人口減少を受け入れないための社会を考えるか、人口減少を受け入れた上で幸福度をあげていくのか、を考えることで政策が変わってくると思う。日本国政府としてはどのように考えているのか。日本の総人口のトレンド 2100 年頃には 3,770 万人という試算を出している。国の指針や府の方針はどうなっているのか。

事務局：新しい総合戦略策定で大きく公表されているものはないが、前回の地方創生の考え方は、国の方向性では人口を増やす目標ではなく、1 億人程度の人口を維持したいとのことであった。減少することは受け入れるけれども、経済的な活力を維持していくために一定数必要であり、人口減少を抑制していきたいといった考え方である。八幡市としても現在の人口は 7 万人であるが、都市機能を考えていくと一定のところで人口を維持していく必要があり、2040 年に 6 万 5 千人以上をキープすることが目標である。人口減少による経済の後退については、観光等で来ていただける交流人口から経済に寄与していただく。

委員：総合的な議論を地域で行う時期に来ているのではないかと。ここで人口を維持するという考え方があると、税収や社会保障を確保する必要があり、財政的な問題があるため、どこかで無理をしないといけないと考える。

- 委員：データの見直しの有無に関わらず、次期の総合戦略を考えるときに検討していく必要がある。
- 委員：既婚か未婚かで差がある、未婚についてどう考えるか。土地利用が変わればよいのではないだろうか。
- 委員：岡山県の奈義町では出生率が2.81%(2014年度)と高く、同町では独自性の高い子育て支援策を有しており、八幡市でも類似施策を実施することができるのではないか。
- 事務局：土地利用の在り方によっては、社会増減につなげることができると思う。八幡市内に従来型の工業団地はあるが、それ以外は男山地域を中心に住宅地開発をしてきたが、働く場としての議論は活発にできていない。残る地域としては農地が大半を占め、規制があり利活用の検討ができていない。
- 委員：仮に団地のようなものを造ってもパートの方は地元の方が多いのだろうか。
- 委員：従来の土地利用計画だけで定住人口が増えるとは思えない。
- 委員：人口が増加すると治安が悪くなるなど、いろんな問題が起きるのではないかとと思う。
- 委員：八幡市に住んでいる人たちの幸福度をいかにあげていくかが大事だと思う。ハワイにあるDMOは50年の歴史があり、歴史・伝統・文化・人・自然を重点に挙げながら、住民の幸福度の向上を常に考えながら実施している。参考にしながら八幡市の幸福度を考えるべきではないか。
- 委員：税収も確保しないといけないので、人口も大事だということに戻ったが、新しい総合戦略を作るにあたって、八幡市民の幸せが何か目標数値を考えて、人口増加をどのように進めるのか考えていく必要があるのではないか。

(3) 次期総合戦略の策定について

- 委員：昭和40年頃からサラリーマンと専業主婦で構成される世帯を前提にした住宅都市として発展してきた八幡市がどのように変貌を遂げていくか、従来からのまちを調査する必要があるのではないか。たとえば空き家の実態調査をしてみるとか、そういったものはどの柱建てに入るのか。

事務局：生活環境ということでは、「やわたスローライフチャレンジプロジェクト」になると思う。生活の環境でも、健康に暮らせるまちであるとか、子育てしやすいまちの視点でみると、「やわた子ども未来プロジェクト」「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」が当てはまる。

委員：八幡市には仕事の魅力がない。観光では三川合流の桜があるが、観光客は八幡には立ち止まってくれない。ここで企業に魅力のある街にすれば雇用ができる。早急に取り組む必要があると考える。

委員：様々な課題がある中でSDGsが役に立つと思う。日本が先進的な事例をもっている。街づくりをしていくにあたって、市が手をあげて、SDGs未来都市になってしまえば、国が間に入って、大きな企業とかそこに支援していくような形をとったりして、共同で取り組みを推進することができる。

委員：魅力的な働く場の創設が新たに加わっている。「やわた観幸発信プロジェクト(仮称)」「やわたスローライフチャレンジプロジェクト(仮称)」は確定しているのか。

事務局：確定はしていない。今回の人口分析等を踏まえた事務局案の段階のものである。

委員：結果の要因分析をする必要があるのではないか。限られて時間ではあるが、要因分析をする必要があるのではないか。インバウンドで訪れた方がどのような割合でおられるのかはデータがないこともあり、議論が深めれていない。たくさんの委員の方からお話があったが、地域特性や八幡らしさ総合戦略を作るための基本理念を確認することだと思う。次期総合戦略を策定するにあたって、人口ビジョンそのものを変えないにしても、どのようなまちを目指すのかを確認する必要があるのではないか。

3 その他

(1) 次回懇談会について

8月下旬を予定。

4. 閉会